



広島西ロータリークラブ会報

No. 2076

THE ROTARY CLUB OF HIROSHIMA WEST

例会日・木曜日 12:30~13:30
例会場・ANAクラウンプラザホテル広島
会長 井原 俊彦
幹事 香川 基吉

事務所・〒730-0011 広島市中区基町6-78
リーガロイヤルホテル広島13F
TEL 082-221-4894・FAX 082-221-4870
E-mail:hwrc@godorc.gr.jp
広島西ロータリー <http://www.hwrc.jp/>

RIテーマ Reach Within to Embrace Humanity
「こころの中を見つめよう
博愛を広げるために」

本年度会長テーマ
「ユーモアでロータリーに
もっともっと笑顔を」

「ロータリー親睦活動月間」

2012年 6 月 7 日 第2052回例会

◆ 会長時間 ◆

井原会長



ロータリアンとは情緒に惑わされない人達

皆さんこんにちは。今日は広島南RCの会長エレクト、井内康輝さんの卓話を頂きます。それに関連しては後程紹介させて頂くとして、お配りしている「福島原発からの放射線への被曝は本当に危険なのか」と題した2月3日の広島南RCでの井内先生の卓話の要旨を是非お読みください。私がたまたま3月15日の会長時間で“ロータリーは瓦礫の広域処理の世論を高めよう”と述べた意見と同様の主旨のものです。

先日東北の瓦礫を受け入れようとする関西のある市の女性市長が、瓦礫には放射能は無く、たとえ放射線が微量に残っていたとしても通常我々が自然界から受ける量で問題でないことを説明しているテレビニュースの場面に、中年の女性が「瓦礫受け入れ絶対反対！」と叫んでいました。瓦礫を受け入れると放射能に汚染されて子供達に癌が発生する、と情緒的に反発するので話し合いになりません。このような激情、エゴ、衆愚性が、朝日新聞も言及し文芸春秋で再掲載された“日本の自殺”を示す徴候の一部なのでしょう。宮城県石巻市の瓦礫の試験焼却をした北九州市で、放射性セシウムの空間線量の変化は当然ながらありませ

んでした。

広島県では瓦礫の受け入れをしないのでしょうか。何故か幾つもある被爆者団体が放射線に絡めて瓦礫受け入れ反対という声を上げると、なかなか反論できない雰囲気があるようです。受け入れ反対を言う人達は、被爆者であれ誰であれ人間として心が動かないのでしょうか？広島・長崎での原爆では高い線量の放射線に被爆した人達に多くの犠牲者が出ましたが、福島原発事故では癌発生率が少し高くなるとされる100ミリシーベルト以上被爆した人はいません。仕事を失い、仮設住宅に移され体調を崩して病気になったり亡くなられたりした方がおられますが、いずれも放射線そのものによるものではありません。今後も除染などによって残留線量が低下してくるので、子供達は既に学校で遊べるようになっているし、将来的にも発癌、遺伝的異常も通常と変わらないと専門家は断言しています。その様な大きな違いがあるのにカタカナで「ヒロシマ」「フクシマ」と情緒的に結び付けて、いかにも福島でも広島でみられたような病気が発生するかの如く色々なメディアが煽動報道をしました。それにつられて東北の他県の瓦礫も心配だという集団ヒステリー状況ができたのでしょうか？

我々ロータリアンは情緒的報道に惑わされず、4つのテストに照らして行動しましょう。

ありがとうございました。

● 会務報告 香川(基)幹事

※他クラブ例会変更

- 6月19日(火) 広島安芸RC・広島西南RC 夜間変更
6月22日(金) 広島城南RC 休会
6月25日(月) 広島東南RC、広島中央RC、広島廿日市RC 夜間変更
6月26日(火) 広島西南RC 休会
6月27日(水) 広島陵北RC 夜間変更
6月29日(金) 広島城南RC 夜間変更

※例会終了後、4階「松の間」において6月定例理事会を開催いたしますので、理事会メンバーは出席願います。

● 委員会報告

出席報告 尾形委員

本日(6月7日・木曜日)

会員数	83名	出席者	72名
欠席者	11名	ご来客	3名
ご来賓	1名	ゲスト	0名
		計	76名

前々回(5月17日・木曜日)

出席率 100%



※次年度古屋幹事

次年度地区大会仮登録について案内を回覧しますので、出欠の回答をお願いします。なお、2012-13年度地区大会は記念ゴルフ大会及び本会議後の懇親会は開催されません。

祝 6月お誕生日おめでとうございます。

(6名)

宮崎君 羽井君 村上(昇)君
荒川君 堀江君 大植君



● スマイルボックス SAA 斉藤委員長



☺ テレビで紹介されてガッチリ!

羽井君(自主申告・金一封)

5月31日放送の「ケンミンショー」で、グループ会社「フレッズ」が販売する広島市近郊のみで食べられている「やおぎも」の紹介がありました。売上げも急増しました。有難うございます。

☺ 工場増設でガッチリ! 竹本君

ヒロツクは5月末に、本社向かいの食品工業団地協同組合内に「本社第2工場」を稼働されました。手狭となった既存2工場の設備の一部を移して作業の効率化を図るほか、海外輸出商品の製造に備えての事です。益々のご発展を祈念いたします。

☺ ガスでエコ生活、ガス最高~!

佐伯君、武田英夫君

広島ガスは5月25~26日、産業会館で最新のガス機器を展示即売する「住まい『ガス』テキフェア」を開催されました。都市ガスを使って発電する家庭用燃料電池エネファームと、太陽光発電を組み合わせた「ダブル発電」もPR、節電が求められる中、広島ガスの益々のご発展をお祈りします。

☺ いつまでもご自分の歯で食事を。

豊岡君、梅田君

6月4日は、虫歯予防デーです。健康で長生きする為には、丈夫な歯が必要です。現在、虫歯のある方は豊岡君、梅田君に早期治療をしてもらい、歯を大切にしましょう。

☺ 紫雀会5月例会報告

5月17日、庚午クラブにて開催。優勝は小橋君。2位は岡野君。3位は園尾君。

■ 卓 話

卓話講師 井内康輝先生のご紹介

井内先生は昭和49年広島大学医学部を卒業し、平成2年に41歳で教授に就任、広島大学学長補佐、広島大学医学部長など歴任され、今年3月、広島大学大学院、病理学講座の教授を退任されました。4月からはNPO法人総合遠隔医療支援機構の理事長、病理診断センターの副社長をされています。肺癌、乳癌の病理の専門家として特にアスベスト(石綿)による肺の中皮腫の発生についての研究の

権威で、厚労省の石綿確定診断委員会の委員をしておられます。

7月から広島南RCの会長、そして来年5月に開かれるロータリー世界平和フォーラム広島の幹事を既にされています。

~~~~~



## ICTを使った 新しい病理診断

広島南ロータリークラブ  
NPO法人総合遠隔医療支援機構  
(株)病理診断センター

井内 康輝氏

日本の医療は変わりつつあります。これまでは患者さんがかかったひとつの医療機関で診断から治療までを完結させる医療が中心でしたが、次第に地域連携を重視する方向がうち出されています。その理由は、日本の人口に占める高齢者の割合が増え、医療機関を受診する患者数は増加し、さらに、それぞれの患者の療養期間は治療の効果もあって長期化しています。一方で、医療費は抑制されていますが、経費の上昇によって医療機関の経営は苦しくなりつつあります。また、医師不足といわれる状況で、医師の確保とくに勤務条件の厳しい診療所での医師の確保が難しくなっています。一方、患者と社会の背景も大きく変化しています。患者は積極的にいわゆるセカンド・オピニオンを求める傾向にあり、より高度で専門的な医療のニーズは、診療を初診で訪れた医療機関に頼らず、信頼できる医療機関に移っていく傾向が認められます。また、高齢者の増加は、医療、介護、保健が一体となった福祉行政を余儀なくされており、医療機関と介護施設などの福祉を担う機関の連携が必須となっています。

従来から行政では、二次医療圏単位で医療を提供するという考え方があります。広島県においても地図上の位置から7つの二次医療圏が設定され、これらを単位に保健医療計画を考えていますが、最近では交通網や情報網の発達によって、こうした地図上に線引きされた二次医療圏をこえて患者の移動が起っています。これは、医師とくに各分野の専門医が偏在していることによって助長されています。

従って各医療機関のもつ個々の患者の情報は、

各患者の個人情報の保護の観点を重視しながらも、医療機関の間で共有化される必要があります。地域連携パスあるいはクリティカルパスとよばれる仕組みは、これを具体化したものであり、近い将来は、患者自身がこの情報を自分自身で管理することになるでしょう。

このような背景のもとで、地域で医療機関が連携してとりくむ医療が展開されつつあります。代表的なものは救急医療であり、一次救急から三次救急まで役割が分担されています。10年ほど前からは、CT検査やMRI検査という画像診断も連携がすすみ、近年、夜間救急時の画像検査を集中化して診断する試みが始まっています。この状況の中に、我々は病理診断を加える試みを始めました。

病理診断とは、患者さんが症状を訴えて医療機関を受診した際、胃や大腸の内視鏡検査などで組織を一部採取し、とくにがんか否かの診断をつけること、手術で摘出された臓器を検査して、病変の診断をつけることで治療の妥当性を保証すること、をいいます。従来は組織を薄く切って（1mmの1000分の3）、プレパラートとよぶガラス板の上のせた標本を作成し、これを病理専門医が顕微鏡をのぞいて診断をつけていました。しかし、近年、ICTを使ってバーチャルスライドシステムが開発され、作成された標本をデジタル情報化し、端末の画面で病変の診断をつけることが可能となりました。これによって、医療機関に病理専門医がいなくても光ファイバー網を用いれば、遠隔地からも診断が可能となり、より高度な診断をより専門性の高い病理医にみてもらうことも可能となりました。インターネットを使って海外との診断のやりとりも容易です。

こうした診断をまず、広島県内で始めようとしています。これによって広島県内の医療、とくにがんの診療は県内のどこに住んでいても同じレベルの病理診断を受けられるようになり、県民全てに大きな利益をもたらすと考えています。今後、比較的技術革新の遅れていた医療分野に、ICTを使った新しい形の医療が次々と展開されると思われます。

### ● 卓話予告

| 日時      | テーマ     |
|---------|---------|
| 6/21(木) | 委員長退任挨拶 |